

飲水タイムについて

2014年 2月 5日

1種委員長 長尾誠二

1種委員会では、昨今の猛暑の状況を鑑み、熱中症予防という安全面から香川県リーグにおいて飲水タイムを設けることとしました。

これを受けて飲水タイムの進め方について説明します。

1. 下記6の条件を越えた暑熱下の試合では、前・後半それぞれの半分の時間を経過したころ（40分ハーフの場合は、20～25分ころ）、試合の流れの中で両チームに有利、不利が生じないようなボールがアウトオブプレーのときに、選手に指示を出して全員に飲水をさせる。もっとも良いのは中盤でのスローインのときであるが、負傷者のために担架を入れたときや、ゴールキックのときも可能である。
2. 選手はあらかじめラインの外におかれているボトルを取るか、それぞれのチームベンチ前でベンチのチーム関係者から容器を受け取って、ライン上で飲水する。
3. 主審、副審もこのときに飲水して良い。そのために第4の審判員席と、第2副審用として反対側のタッチライン沿いにボトルを用意する必要がある。
4. スポーツドリンク等は、使用会場に確認をとって運用を決定する。
5. 飲水タイムは、30秒から1分間程度とし、選手にポジションにつくよう指示して、なるべく早く試合を再開する。飲水に要した時間は、「その他の理由」により空費された時間として、前・後半それぞれに時間を追加する。
6. 飲水を行う条件は、乾球温度31℃以上の場合とする。
通常、県リーグの会場では温度測定ができないため、「安全重視」という観点で主審の裁量で決定する。また、時間の経過に伴って環境条件が変わった場合は、飲水を実施するかしないかの判断をハーフタイムに変更してよい。
7. 飲水を行う場合は、試合前あるいはハーフタイムに両チームおよび運営にその旨を知らせる。
8. 飲水タイムは、あくまでも飲水のためであり、休憩や戦術指示のための時間ではない。
9. 飲水タイムとは別に、従来通り、ボールがアウトオブプレーのときにライン上で飲水できる。

【手順】

1. 前・後半それぞれの半分の時間を経過したころ、アウトオブプレーのときに、主審は選手に飲水の指示をする。
2. 選手はあらかじめラインの外におかれているボトルなど取って、ライン上で飲水する。
3. このとき、両チームベンチから戦術指示をしてはならない。副審、第4の審判員は両ベンチから指示をしていないか監視する。
4. 飲水タイムは、30秒から1分間程度とし、選手にポジションにつくよう指示して、なるべく早く試合を再開する。
5. 飲水に要した時間は、前・後半それぞれに時間を追加する。

以上